

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171600265), 法人名 (有限会社 グループホーム・和), 事業所名 (グループホーム・なごみ), 所在地 (松山郡江差町字田沢町492番地3), 自己評価作成日 (平成27年2月1日), 評価結果市町村受理日 (平成27年4月9日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長い人生の中で積み上げてきたその人らしい人格が束縛されることなく、安心と尊厳の中でその人らしいごく普通の暮らしができる支援をしています。
具体的に
1. その人の心身的能力に応じた地域参加・・・町内会各行事(地域交流会・児童保育園交流・お祭りなど)
2. その人の生活背景からあたり前の暮らしの継続・・・回想法・五感刺激(自然にふれあう)・調理手伝いなど、自然とのふれあい
3. その人の残存機能維持、向上に伴う介護予防・・・その人のどの部分に働きかけどの部分を維持するか→おしゃべり・唄う・散歩・歩行訓練・足湯・温泉・山菜採り・あんまマッサージ指圧

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0171600265-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年3月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、江差町近郊の田園地域に立地し、周辺は山菜が豊富で夏場は露天の足湯温泉があり自然豊かな環境である。平成15年に開設している2ユニットの事業所で、後に地域のニーズに応じて、1ユニットのグループホームとデイサービス、ショートステイ、高齢者下宿を増設し、家庭的な環境のもとで地域の人達との交流を通して「あたりまえの暮らし、そのひとらしい暮らし」の継続を目指して取り組んでいる。運営者や職員は地元出身者が多く、事務局長は町内会長の要職に携わり地区の実情を熟知している。恒例となっている三世交代交流会などの町内会活動が盛んで、事業所の夏祭りや収穫祭には地区の人達が参加している。ご近所の方々は除雪をしたり野菜や魚介類を届けるなど協力と交流が盛んに行われ、利用者は地域の一人として暮らしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき、管理者・職員はその人らしい人生が尊重されるよう、日々ケア方法を検討し質の高いサービス提供につなげている。	利用者がその人らしくあたりまえの暮らしを支援することを主幹とした「運営理念」を基に安心と尊厳を目標に定めた「介護理念」を全職員で共有し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域が行っている行事(三世代交流・祭りほか)への参加、保育園児の訪問を受け入れ交流している。	町内会のお祭りに神輿行列が訪れ、事業所の夏祭りには地域の方々が参加し、畑の作物や魚の差し入れがあり、率先して除雪をしてくれるなど地域との交流は図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの演芸会、保育園児の訪問などを招待している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回以上運営推進会議を開催、その中で具体的に報告し、意見やアドバイスはケアサービスの向上に活かしている。	2か月ごとの運営推進会議は行政や地域の代表などが参加し運営状況・災害対策など多岐にわたり協議し、会議と行事を一体化させて家族と利用者が参加しやすいように工夫している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡は密に相互に行き来し、協力関係を構築し情報を共有している。	行政と協議し事故報告提出の基準を定めたり、困難な事例の相談とアドバイスを受けるなど、実践現場と施策の整合性を図り、問題解決に一緒に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置、研修に参加し全職員で勉強会を実施している。ただし、家族の同意を得た上で拘束することもある。	入居時に身体拘束廃止について説明し家族の同意を得ている。マニュアルを整備し拘束委員会を中心に外部研修や内部勉強会で職員間の共有認識を図り、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで話し合う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に学ぶ機会もあり同制度の利用者もいるため、その生活状況・資料提出等も含めて関係者と連携し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分な時間をかけ家族の思いも聞き入れ、利用料金や内容、急変時・緊急時対応について説明する。退去については、その後の方向性まで話し合っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度利用者の要望を聞き職員で話し合っている。家族へは電話や面会時に本人の思いを伝え、なるべく早く叶えられるよう努力している。	地元出身の利用者が多く報告や連絡を密にしており、家族が訪れた会話の中や電話などで意見や要望を伺い、検討して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議、管理者会議ほか、ミーティング、昼休みなど日頃から話しやすい関係作り、意見や希望を発言できるように努力している。	職員は施設長や管理者とは良好な関係を構築しており、休憩時間や日々のケアの中で意見や要望を伺うこともあり、表出された課題は反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別性を重視し、子育て中や通院日への配慮も含め休み希望に沿った勤務体制になるよう努めている。産休・育児休暇制度も利用し、職員が職場に戻れる環境作りも支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	戸外研修には平均的に参加できるようにしている。報告実践し、全職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターや松山振興局主催の介護職員、介護支援専門員研修が行われ、情報交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居に至る不安解消のため、生活歴・家族・本人の願いなど聞き入れ不安なく生活できるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と家族の気持ちを大事にし、希望を受け入れながら信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時より、本人・家族とのアセスメントはケアマネ中心に、他の事業所、医療と連携し、必要なサービスが受けられるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のお手伝い(掃除、食事の下ごしらえ、洗濯の手伝い)、個々の機能を活かし、生きがい喜びを感じている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族が主体者として考え、日々の生活の共有ほか、受診状況なども共有し御協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人の希望に合わせて電話・面会を自由に行い、昔からの関係づくりを継続できる機会を設けている。	生活歴や入居前の関係を大切にしている。元教師の利用者は隣町にある教え子の理容院が馴染みで、職員は送迎支援に取り組み関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の個々の関係性も大切にし、孤立しがちな利用者様については職員が他者と関わりを持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気になるところであり、同事業所の紹介、他施設への支援を行うよう配慮はしている。不意の出会いにて状況を把握する場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、さりげなくどう過ごしたいか話しかけ希望の把握に努めている。意思疎通の困難な方は表情や仕草から汲み取る。	その人らしい暮らしを支援し、利用者一人ひとりに合わせて寄り添い、表情や行動から汲み取り、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、本人の生活歴・背景の情報収集に努め、お茶などの場面で家庭などの経過を話題とし、ケアに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日レクリエーションや諸活動を一緒にすることにより、個々の状態を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体像の観察、ミーティング、事例検討を実施し、スタッフ全員が情報共有できるよう徹底している。ご家族との連携も大切にし、状態を話し合い意見交換をしたうえで介護計画を作成している。	基本情報を基にケア会議を実施し家族、職員、主治医の意見を反映し、モニタリングで新たな課題の有無を検討しながら介護計画を作成している。計画の実施はケース記録表に記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録により生活状況が分かるようにしている。ケア変更時は都度申し送るほか、ミーティングや会議等で全職員に伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域住民の訪問が地域交流の場となっている。移動図書館の利用、ボランティア訪問、温泉利用、あんまマッサージの利用等、有意義な利用に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季の自然に触れ合いながら足湯を利用したり、地域の行事に参加し住人との触れ合いを深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、医療関係は十分理解を得られている。他科他病院については介護連絡表を活用、家族同伴の場合も、口頭・連絡表を活用し本人の状態を分かりやすく伝えるようにしている。月に1度往診あり。受診は家族同伴を基本としているが状況に応じて代行、通院記録を家族に報告し適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者は従来のかかりつけ医を受診しており、往診は個々に合わせ支援している。眼科など専門外や遠方の受診は家族対応としているが、状況により職員が代行することもあり、医療機関から情報の提供を得て家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に連携をとりながら個々の支援にあっている。様子がおかしい時はすぐに電話連絡をし指示をいただいで対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は汚れ物や不足品の補充がてら看護師に本人の治療の様子などを聞き情報交換をしている。退院時には必要であればカンファレンスを開いて情報を得ている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族・主治医との連携がとれ職員もその対応・ケア方法を共有、遠方の家族には電話連絡を速やかに行い対応している。変化が大きい時は夜中でも救急外来を利用している。	重度化した時や看取り介護に関する指針と同意書を整備し、介護支援専門員を中心に職員と共有を図り、家族の意向を最大限に尊重しチームで支援する体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命処置の訓練を受けている。緊急時の対応はマニュアルに沿って行えるようにしており連絡体制もできている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練を行い、避難経路の確認・消火器設置場所の確認を全職員で行っている。	消防署の指導の下、日中・夜間想定で年2回、災害訓練を実施している。ユニット間は防火扉が設置され町内会や地域協力隊員との連携も整え、訓練終了後、反省や評価を受けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	持ち物の出し入れは本人と共に行っている。記録・書類の保管を徹底している。トイレ誘導や入浴時は特に気を配り対応している。	会議の中で声掛けによる成功と失敗例、困難事例などが話し合われ、プライバシーを損ねない声掛けや言葉使いを学習し、実践に活かしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の理解力に合わせ働きかけ、思いや希望を聞きだせるよう努力している。個人とゆっくり関わり話をする時間を作るよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の顔合わせ、バイタル測定で心身の状況を把握し個々にあった1日の過ごし方をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理美容室を利用し、好みの髪型にしてみたり一緒に服を選んだりとおしゃれが出来るよう支援している。爪きり、耳掃除なども支援し身だしなみにも気をつけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節、行事に合わせて手作りの料理を提供している。利用者様の声を聞き、食べたいものも可能な限り提供できるようにしている。食材の下ごしらえも一緒に行っている。職員と一緒に片づけをしてくれている。	利用者は山菜の処理は手馴れたもので調理の下ごしらえや後片付けをし、「頼まれるのが楽しい」と職員に伝えており、食事を一日の大切な活動にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態観察を行い、食事量や水分量が低下した利用者様に対して細かく記録し対応している。個人の状態に合わせてとろみ付けもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別的に毎食後の口腔ケアを行い、夕食後は義歯のつけおき、洗浄保管も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の行動表情から察知し、速やかにトイレ誘導、個々のパターンを把握し快適に排泄できるよう支援している。立位困難な場合でも残存能力を活かしながら安全に排泄介助している。	排泄パターンを把握して声掛けや誘導、歩行介助でトイレでの排泄を支援している。トイレの内側にカーテンを取り付けて羞恥心に配慮し、日中は布パンツを使用し、出来るだけ自力での排泄を促すよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を利用し、個別的に便秘薬を服用。水分を多めに摂ってもらったり、牛乳を飲むなどスムーズな排便を促している。また軽運動も行って便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3～4日の入浴を実施。温泉は週2回利用、希望を受け入れ都度対応している。バイタル測定を行い体調の変化にも十分注意している。入浴後は水分補給を行っている。	温泉の大型浴場は週2回入浴ができ、手すりにつかまり、泳ぐ仕草や歌や会話を楽しみ、毎朝、臀部を清拭する人やシャワー浴だけを希望する人などその人に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体的活動、入浴は午前中に行うようにし、午後からはゆったりとくつろいで過ごしてもらうようにしている。居室で自由に休む時間も尊重し個々にあった安眠のケアをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬内容を理解し、定期的に服用できるよう支援している。薬の変更時には特に症状全体像の変化など確認し記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や裁縫など得意な方に手伝ってもらうことで役割が出来ている。自らすすんで行ってくれることも多く、他利用者様と一緒に協力し、考えて行っている姿も見られています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天候時は施設前で外気浴、歩行訓練を行い、本人の希望に沿うよう支援し、四季の移り変わりや近くの風景なども楽しめるよう努めている。	町内会行事の参加や周辺の山菜取り、夏場には足湯に入り、散歩や買い物の時には海で休んだり、事業所近辺の田んぼで稲の生育を眺めては季節を感じ、遠出のドライブで外食を楽しんで気分転換をするなど外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで他者とのトラブルや盗られ妄想も起こりやすいことを、家族や本人に伝え納得してもらい会社のほうで預かってもらっている。必要時は自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の状況にも配慮し、希望があれば電話してもらっている。手紙の投函も支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように玄関やホール内、利用者様と一緒に作成した作品を飾ったりしている。	事業所内は地場産の杉と桧材を使用しており、木のぬくもりが感じられる。天窓から採光もあり、不快な臭いや音もなく、利用者の作品や絵画が季節感を表わし、玄関横の娯楽室でテレビを見たり、団欒の場として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係に配慮した居場所作りを心がけている。新しく入居した方には孤立しないよう気を配りなじめるように配慮。保護棒を利用し運動する方もおり、思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身の回りの物品、使い慣れた物品を持参してもらい本人が心地よく生活できるようにしている。	居室はクローゼットが備え付けてあり、在宅当時の家具類や日用品が持ち込まれ、仏壇には毎朝お水とご飯を供え、家族の写真を飾ったり、カーペットを敷いたり、それぞれの利用者が居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に名札を下げ、自分の居室がわかるようにしている。場所が分からない方のために貼り紙などでわかりやすくしている。		